

## 2021（令和3）年度第2回組織等検討委員会 議事録

開催日時：令和3年10月3日（日） 15:00～16:00

開催場所：中中村集会所

出席者：佐佐木(委員長)、伊藤、足立原（組織検討委員）

宮崎（会長）、岡田（副会長）、佐藤（会計・組織検討委員）、山浦（上・自治会長）、

春山（中・自治会長）、鈴木（下・自治会長）、國本（庶務・組織検討委員） 敬称略

司会： 佐佐木委員長

### 1. 加入促進案内の検討

→ 入りたいという魅力発信。

- ・見える形での町内会のメリットの情報発信について前回の委員会で協議した。
- ・地域によっては行政の情報発信の中での自治会のメリットを強調している所もある。
- ・他地域で発信している町内会・自治会のメリット。

「地域住民同士の交流」地域の情報を知る。

「子供会などの催し」。

「防災面での協力・訓練」避難訓練、防災、日頃からの備え、情報共有。

「治安面での協力活動」消防、パトロール、街灯・カーブミラー、清掃。

→ 五役会で調整中の案内はこれらの要素が含まれている。

- ・組織等検討委員会としては、加入者を増やすための声掛けに注力しなければならないと思う。

町内会ホームページに掲載されているメリットと町内会作成の案内、各自治会の独自文書を合わせて、配布して加入を促進する。

→ 必要文書を20部ずつコピーして各自治会長へ配布する。

- ・町内会加入の案内として、表紙ページをA3で出力して掲示板に貼ったらどうか。

### 2. 検討・確認

- ・未加入者への紹介の方法。

ホームページを見るところまで行っていない。→ その働きかけが重要だと思う。

- ・先日の大雨の避難勧告で避難した人たちから、避難所の運営を行う人がいなくて対応がされていなかった。という声も上がっていた。

→ 避難所開設委員会が避難所の運営を行うが、訓練が今年はまだ行われていないので、運営準備ができておらず、避難所での対応活動が行われなかった。

今後、防災委員会の対応として取り組まなければならない。

- ・各自治会の加入世帯・退会世帯を見えるかするためにグラフ化したらどうか。（5年くらい？）

→ 問題は何故退会したのか、なぜ入会しないのか、不満点はなにか、という意見を拾い出し、解決することに力を注ぐことが重要ではないか。

- ・退会者の主な要因は 役員をやりたくないという意見。

会費を払っているのに何をやっているのかわからない。

この2点がほとんどである。

- ・メリットが会員にも伝わりきって居ないことも原因の一つだと思う。

- ・現在確かに会員数は減少の方向に向かっている。メリットは少し強めにアピールする必要があるの

ではないか。

- ・行政のサービスと重なる消防団への後援会費なども、ボランティアに対するその意味が理解されておらず不信感を持つ方もいる。消防団の実際の活動が知られていない。
- ・情報発信力が重要だと思う。
  - 今年から議事録の回覧も始めて、その中で消防団の活動も紹介している。
  - 今後、積極的な情報発信への取り組みが必要。

### 3. 実現に向けての具体的なメリットの検討

- ・発電機を完備し加入世帯にスマホの充電。(防災委員会・自治会)
- ・簡易トイレの準備。(防災委員会・自治会)
  - 今後防災委員会での取り組みに盛り込む必要がある。

### 4. 新たな観点からの町内会・自治会のアピールの検討

- ・若い人たちの力を借りたらどうか。大学のゼミなどとの交流も異なる視点での姿が見えてくる。
- ・例 中村町内会・自治会にぎわい創生プロジェクトの創出。  
近隣の学校との連動プロジェクトを考える。

**実例 相原の竹あかり** <https://machida-marugoto.jp/article/607>

内容：さがまちコンソーシアムの取り組み「相原魅力づくりコンテスト」で学生が提案したコンセプトを活かし、相原地域に多く自生する竹を用いて“竹灯籠をはじめとする竹のオブジェを、相原に関わり合いのある美術系大学生を含む地域の人々の共同作業で製作し、JR 相原駅をはじめとして人の目に触れる各所に設置し、明りを灯します。これにより、地域住民や相原を訪れる人々に『竹あかりの街” あいはら” 』を印象付け、独自性のある賑わいつなげ、地域の活性化を図ります。

- 地域の子供たちを組み入れた要素を考えると父兄の見方も変わる。
- ・新しい行事を作るのはむづかしいが学校行事との連動も考えられないか。
  - 学校から地域への協力依頼への対応はありうるが、地域から学校へというのは受け入れ難い。  
学校運営協議会などと時間をかけた話し合いが必要。  
地域として何かやるので、小学生、中学生集まれという形なら実現可能だろう。  
その組織作りが課題。
- ・長期的な展望で考えていきたい。お祭りへの子供の参加形態も新しい形があってもいい。  
飛び込みでできるものも実現性が高い。  
現状のお祭りの充実も大事だと思う。出店などキャリア教育の一環となるものもある。  
旧来の盆踊りから子供が発表しやすい要素を組み込むことも考えてもいい。
  - まつり実行委員会でも検討の要素に入れるべき。
- ・安否確認タオルの配布も決定しており、これも町内会の防災の取り組みのアピールになる。

### 5. 次回日程：12月12日（日） 15：30～（時間は暫定）

以 上